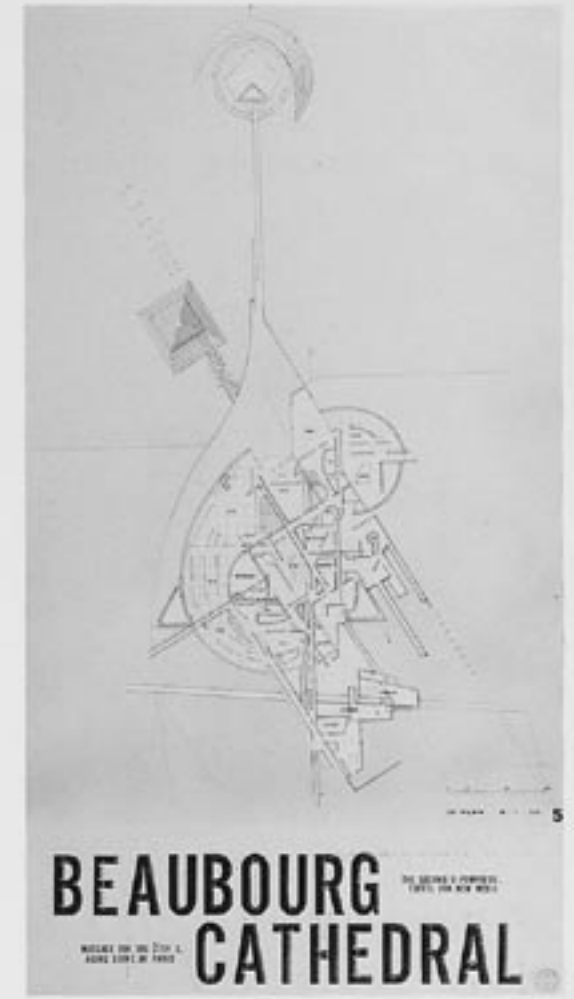
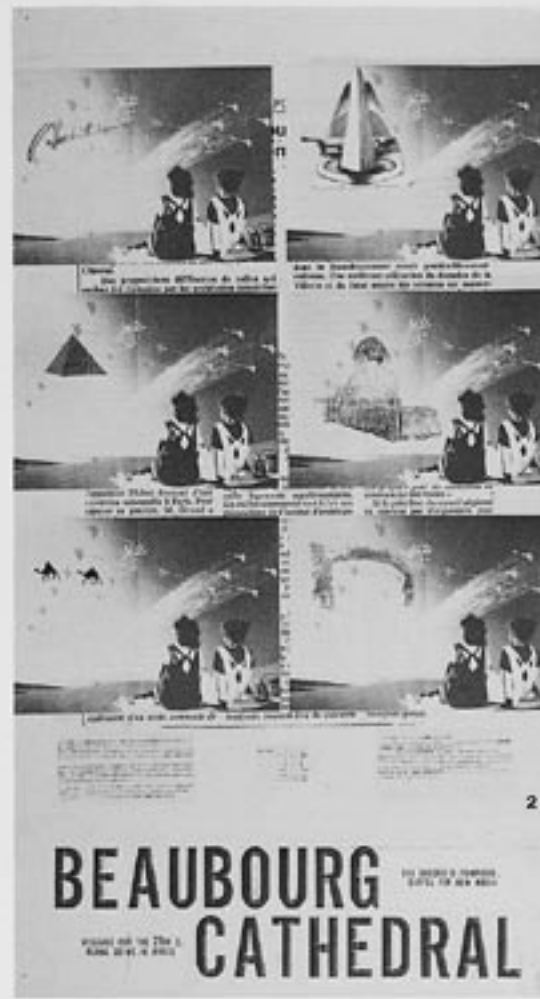


# BEAUBOURG CATHEDRAL

池下 浩一



## ■設計主旨

図面が建築の設計図であることを念頭におくならば、それ自体、ひとつの芸術作品に成り得るのではないだろうか……。そう考えた時、私は、建築と美術との融合をはかろうと考えた。

建築を空間の中の物の存在や相互関係、その輪郭だけに頼らず幾つかの Mass に還元して感じ取る、つまり、ある体積を持ちひとつの固まりとして知覚される物体と考え一度それ自体を破壊し、再び凝縮してできる形態に建築の造形的な原点を見出し、日常的機能の概念から独立した幻想的效果を生むための建物を試みた。

本案は、巴黎の芸術・文化の拠点である G. POMPIDOU CENTER に匹敵する、ニューメディアを中心とした科学産業博物館を、TOWER EIFFEL に代わる21世紀のモニュメントを核として計画した。敷地はフランス大革命200周年にあたる1989年、ミッテラン政権がパリ大改造の一環として、万国博覧会の開催を予定してあったパリ西端ジャベル地区、SEINE 河岸を選定した。

＝イメージ・メディアム＝

- 天 ↔ 地    静 ↔ 動
- 明 ↔ 暗    曲線 ↔ 直線
- 光 ↔ 陰    形態 ↔ 機能

